

## 「附属釧路中 平和宣言」

現在、世界中に生きる皆さんに問います。平和とは何でしょうか。今ある生活が当たり前のものとなり、平和とは何か、分からなくなっていないですか。改めて平和について深く考えなくてはなりません。

1945年8月9日午前11時02分のあの一発の原爆のせいで、私達が過ごしているこの生活を、平和な日常を永遠に失った人達があります。

当時、長崎市の推定人口24万人に対し、死者73,884人、負傷者74,900人、罹災人員120,820人に上りました。爆発による被害はもとより、放射能の影響もまた恐ろしく、大多数の人が亡くなりました。一見けがをしていなくても、放射線により、髪の毛がなくなってしまった少年少女がたくさんいました。自分も大けがをしているにも関わらず、家族の命を何とかつなごうと、必死に世話をする人もいました。全ての人が辛い思いをしました。

このような事実を私達は知りました。しかし、原爆被害者の方々に対して、「かわいそう」などと他人事として考えるのではなく、その人達の思いを汲み取り、教訓として、今生きるこの世界のために役立つことをしなくてはならないのです。そのために、戦争や核問題に対する正しい認識を持たなくてはなりません。それが、戦争のない真の平和をつくることのできる道だと思います。

その身を犠牲にし、私達にその道を示してくれている被害者の方々のために、自分達の未来のために、さらに次世代のために、この歴史の記憶を風化させないように、守り続けなければなりません。68年前に起きてしまった悲劇をしっかりと受け止め、精一杯生きて、平和を築きあげていきます。私達は核兵器ゼロの平和な世界を願い続けることをここに誓います。

未来の平和を創るのは私達だ。

平成25年12月2日

北海道教育大学附属釧路中学校 第44期生